

議長定例記者会見 会見録

日時：平成25年8月2日13時00分～

場所：全員協議会室

1 発表事項

三重県議会インターンシップ実習生の決定について
第7回紀伊半島三県議会交流会議の開催結果について

2 質疑項目

復興予算の返還について
参議院議員選挙の結果について
インターンシップ実習生の受入れについて
第7回紀伊半島三県議会交流会議について
復興予算の返還について
参議院議員選挙の結果について
みえ県議会だよりについて

1 発表事項

三重県議会インターンシップ実習生の決定について
(議長)ただ今から、8月の議長定例記者会見を開催します。
まず始めに、三重県議会インターンシップ実習生の決定について発表させていただきます。

平成21年度から実施しています三重県議会インターンシップ実習生の受入れについて、本年度は3つの大学院から計3名の応募があり、厳正な選定を行ったうえで、2名の方を実習生として受け入れることを決定いたしました。

お手元の資料をご覧ください。

受入れを決定したインターンシップ実習生は、丹羽裕之さん、23歳、男性で北海道大学公共政策大学院生。そして、大貫智弘さん、22歳、男性、京都大学公共政策大学院生の2名であります。

それぞれ、地方自治や地方議会に関心を持ち、将来的には地方自治に関わる仕事をすることも視野に入れ応募されたそうであります。ぜひ、議会事務局の実務に幅広くかつ深く関わって、有意義な実習としていただきますよう思っております。

なお、実習の開始にあたっては、私から実習生に受入書の交付を行う予定です。この交付の期日及び場所は別途ご案内いたします。

第7回紀伊半島三県議会交流会議の開催結果について

(議長)次に、第7回紀伊半島三県議会交流会議の開催結果について、発表させていただきます。

第7回紀伊半島三県議会交流会議につきましては、紀伊半島地域に共通する課題について、三重県議会、和歌山県議会、奈良県議会の三者で意見交換を行うために、7月26日に奈良県川上村で三県の議員27名の参加で開催されました。本県議会からは、私と前田副議長、東紀州地域から4名の議員及び各会派から1名ずつの計9名が参加しました。

今回の交流会議では、「観光振興について」と、「大規模災害に備えた「安心・安全」の政策について」の2議題について活発な議論が行われ、次のとおり、県域を超えた協力について今後とも取り組んでいくことで合意しました。

「観光振興について」は、三県の効果的な観光振興を推進するため、アンテナショップ等を活用した首都圏での情報発信の必要性について認識を共有しました。また、熊野古道世界遺産登録10周年に向け、世界遺産及び記紀万葉等を活用した観光情報の発信や各種イベントの開催、三県共通のパンフレット製作など誘客等への広域的な連携、取り組みの推進について、引き続き協力をしていくことで合意をしました。

「大規模災害に備えた「安心・安全」の政策について」は、南海トラフ巨大地震等の大規模災害に備えるため、災害に強い安心・安全なまちづくりの課題である情報伝達の整備、災害時要援護者の安全・安心の実現に向けた取り組み、避難路確保、道路ネットワークの整備等が必要であることについて議論が行われ、災害復旧への支援の充実と、紀伊半島における交通体系(アンカールート)の早期整備促進について、引き続き国へ強く要望していくことで合意しました。

今後の予定としましては、開催県である奈良県議会にて要望書を取りまとめ、三県議長の連名で国等へ要望書を提出することになっています。

私からの発表事項は、以上でございます。

2 質疑応答

復興予算の返還について

(質問)復興予算の12億円の返還のことなんですけど、返還しないといけなくなっただけの状況についてと、県議会の対応について、お考えをお聞かせください。

(議長)復興予算の12億の返還等については、基金が主でございます、その基金の今まで使ったものなり、予算にあげたものについては、なんとか認めるけども、それ以外の使わずにいる基金等については返還をしていただきたいという国の要請だと思いますけど、三重県としては12億を返すということ

ございますけど、国がそのような形で用途を厳しくしてきたという面では、私どもとしては仕方がないなという思いをさせていただいております。それで、どのくらい予算に影響があるかということもいろいろ心配する面があるんですけども、予算については返還することで、当然預かった基金ですので、返還することではあまり予算の方に影響がないということでございますので、これは仕方がないなと、貴重な基金で財源ですけど仕方がないなと、このように思っております。

(質問) 復興予算が他のものに使われていたということについては、どう思われますか。

(議長) 交付された時の条件は、いろいろ幅広く解釈できる状況になっておりましたから、復興予算が別のところで大幅に使われていたという理解は、私はしておりません。国からの指導に基づいた用途、目的に応じて予算が執行されていたと、私は理解をさせていただいております。

参議院議員選挙の結果について

(質問) 参院選の結果の受け止め、お願いできますか。

(議長) 参議院選挙は、今回、自民党の候補者が15年ぶりに当選をされたということで、吉川有美さん、三重県に住んでみえたということでございますけれども、これから当選をされた以上ですね、三重県を代表して、議員活動をやっていただきたいなと思っております。まだまだ、三重県の特長とか、それから地域性とか、いろいろお知りにならない面があるかと思っておりますので、今後とも勉強をして、三重県のために頑張りたいと思います。特に、女性ということでございますので、女性の立場でのこれからの国政へ向けての政策実現とか、それと環境とか、それから金融等も大変熟知されてみえるということで、そんな分野のところも三重県に大変共通する課題として残っておりますので、十分頑張りたいなと思っております。

(質問) 同じ桑名ということで、思い入れとかありますか。

(議長) そうですね。桑名の私もお生まれになった所を知っておるわけでございますので、どちらにいたしましても、三重県の出身ということも忘れずですね、また私ども北勢もいろいろ課題がありますから、そんなところも忘れずに、県全体を底上げするような形で頑張りたいと思います。

(質問) 副議長にお伺いするんですけれども、新政みえの議員ということで、三重県方式の一翼を担って、残念ながらその候補者は落選したんですけれども、それについての感想とですね、それが何か県議会の運営に影響があるかどうか、その辺のお考えをお聞かせください。

(副議長) 副議長として聞かれた質問の中で非常に立場上コメントがしにくうございますが、副議長という立場の中で少しだけ自分自身の思いだけ述べさせていただきます。政党なり、会派なり、含めながら総括はされるものだと思っておりますし、実際、自分自身が参議院選挙を見せていただいた中で、やはり風との戦いというのが今回の選挙戦だったのかなとも思っておりますし、実際の現政権に対する評価、あるいは前民主党政権に対する評価が今回の結果ではなかったのかなと思っております。総括については、私はする立場ではございませんので、三重県方式云々という部分はコメントは控えさせていただきます。と思います。

- 第二県政記者クラブ含めて、どうぞ。

インターンシップ実習生の受入れについて

(質問) 振り出しで恐縮ですけど、発表資料ですけど、インターンシップのお二人というのは出身が三重県とかそういうことはあるんですか。

(議長) 出身はですね、丹羽さんの方は三重県ですね。それから大貫さんの方は、京都に在住ということで、お生まれの方はちょっとよく分かりませんが、今、京都に在住ということでございます。

(質問) 北海道大学は初めてでしたっけ。北海道大学大学院からインターンシップを採られたのは。

(議長) 初めてです。参考に、平成21年は京都大学から2名で、平成22年と同じく京都大学から2名、平成23年が東京大学と京都大学、平成24年が東京大学と京都大学ということでございまして、まさに北海道大学は初めてということでございますね。

第7回紀伊半島三県議会交流会議について

(質問) 三県議会交流会議ですけど、南海トラフ云々という安心・安全策の絡みで、平成23年の紀伊半島大水害についての報告なりとか、あるいは現況、今後残っている課題とか含めての話は出なかったですか。

(議長)平成23年の課題というんですか、そんなところは、前回の会合でいろいろ出されて、それで三重県の方から特にこの災害等についてもいろいろ発言をさせていただいておりますので、今回は細かいそういうところは出なくて、主に避難のルートの問題とか、それから要援護者ですね、こういう方たちをどうやってこうするかとか、それと避難道路網ですね、これはアンカールートということで、これを3県とも大変重要視して、国に早くこれを実現するような要望をしていこうということで、こんな準備がございました。

復興予算の返還について

(質問)復興予算の目的外使用と言っていいのかどうか、それなんですけど、もともと基準は結構緩かったじゃないですか。結局は復興庁そのものへの批判というのはあるわけなんですけども、その辺、議長としてはどういうふうにお考えですか。つまり、結構あいまいなルールのまま国の省庁が割り振って、それを受けて、執行した県にはあまり罪はないという感じですか。

(議長)私はあまり詳しくは担当の方からも聞いておりませんが、確かに甘かったというんですかね、復興もしくは地域に限定をしたというような、こんなところから少し拡大解釈ができるような、用途の分類というんですかね、そんなところであったんじゃないかなと思ってますので、当然この半年くらい前から復興予算の用途、例えばそのクジラとかね、いろいろ拡大されている話題があって、大変世論から批判を浴びてましたから、そういう意味では当時の用途の幅というのは大変広がったんじゃないかと思っておりますので、先ほど言いましたように、三重県も決して不正というんですかね、国から指導に基づいた以外のところではなかなか使っていないという理解をしておりますので、ある面では仕方がないなという思いもしておりますけど。

(質問)ということは、議会から執行部、知事の方へ、もう少し適正な使い方とか受け方を考えろとかいうふうな、そういう意見陳述みたいなものはないわけですね。

(議長)そうですね、今のところは、そんなところの議員からの意見も出ておりませんし、これ最近の問題でございますので、まだ今のところ県議会としてそんなところは考えておりません。

参議院議員選挙の結果について

(質問)参院選ですけど、議長は議長のお立場で中立を保たれたということですけど、実際参院選、自民党籍がおありになるので、今回の吉川さんの勝因と

というのは何だと思われませんか。

(議長) 勝因ですか。まず私は議長でございますが、前月の記者会見では一応選挙は関わらないと、こういうことでなるべく通してきましたので、あまり表に出ることはしてきませんでした。私はそういう立場からちょっと見させていただいていますと、今回の参議院選挙は確かに去年の衆議院選挙で、あのよう形で自民党が大勝をしたと、それ以後やっぱり安倍総理の、このアベノミクスっていうんですかね、この政策、考え方がずっと出てきて、その期待値っていうんですかね、国民の皆さんが期待をしてみえる、この期待値のところ、ずっと去年の年末から今回のこの選挙戦まで盛り上がってきて、そんなところで自民党のいろいろな、うねりっていうか、流れもあつたかも分かりませんが、そんなところが勝因の大きな要素になってきたんじゃないかなと、こうやって私は分析をさせていただいておりますけど。

(質問) 副議長にお伺いしますが、今、議長がアベノミクス云々の期待値みたいなことをおっしゃってましたが、新政みえさんとか民主党を含めて、どっちかという論調がアベノミクスはまやかしだみたいな、そういう論調だったと思うんですけど、その辺のご意見はいかがですか。

(副議長) 内容等についてはですね、私も詳細を全て知っているわけではございませんのでコメントは控えさせていただきたいと思っておりますし、議長がおっしゃられたように、現政権に対する一定の評価と、これからの期待に対する部分が大きかったのではないかなと思っております。

(質問) 選挙が終わられた後、高橋さんと会派は何かお話しはされてるんですか。

(副議長) 終了後に会派総会が開かれておまして、自分自身がちょっと出席できませんでしたので、どういう総括されておるのかというのはちょっと存じ上げない状況です。

(質問) 会派総会に高橋さんは来られたんですか。

(副議長) 出席してないものでごめんなさい、そこも把握してない状況です。

みえ県議会だよりについて

(質問) 副議長にお伺いしますが、29日の広聴広報会議ですが、結果的に

県議会だより云々というふうな、全戸配布中止問題はどのように。

（副議長）今週の月曜日だったと思いますが、広聴広報会議が開かれまして、各会派の意見もいただきながら、全会派とも県政だよりの扱いと同様の扱いに県議会だよりはしていこうというところまで確認いただくことができました。ただ、県政だよりにつきましては、常任委員会の方で議論を深めていただいているところでございますので、その議論内容について、全戸配布の在り方云々という部分については、常任委員会の議論を注視をしていこうということで、全会派の方向性の確認がさせていただけたところでございます。

（質問）ということは、戦略企画の関係常任委員会で、実際に県政だよりの方を、執行部の県政だよりをもんでますけども、その結論次第で、その結論を待って県議会だよりの方も歩調を合わせるということによろしいんですか。

（副議長）というか、常任委員会の方としては、前年度から動いている部分が既にありますので、そういった動向も踏まえながら、かつ、市町として次年度の予算編成に向けた取り組みがこれから展開されていく形になるかと思しますので、そういう動向も踏まえながらという形の中で、県政だよりに県議会だよりとしてはどういうふうに取り扱っていこうという方向性であります。

（質問）たればじゃなくてですね、仮に県政だよりをもんでいる常任委員会の方で、県政だよりの全戸配布というのをとりあえず1年は、来年からじゃなくて、2、3年様子見ようという意見も既に出てますけど、その形にもし結論がなった場合は、県議会だよりも数年、今のまま配布して、ということはあり得るわけですか。

（副議長）たればの話ですので、そういうふうになればそういう可能性もありますし、まだ常任委員会の方の議論として延期をするという話も聞かせていただいておりますので、論点整理をしながら執行部側に回答を求めているという段階やに聞いておる状況でございますので、11月の試験データ放送を評価しながら、最終のどういう判断をしていくのかという形になるんじゃないかなと思います。

（質問）試験データ放送は11月からですか。

（副議長）前回の常任委員会の中で、前倒しをして、11月から対応していきたいという執行部からの説明があったと聞いております。

(質問) これはこれで、県議会だよりも乗っかるんですかね。

(副議長) その議論も実は前回の広聴広報会議で深めさせていただいて、11月に前倒しするというのがデジタル放送の基本的な部分の試験を、試行をしていただく、そういう部分でありますので、県議会だよりとして11月に前倒しをする必要性はないのではないかという、広聴広報会議での議論結果となりました。したがって、2月からの、当初予算から執行部としてあがっている試験データ放送については、県議会としては対応していこうという形は確認が取れておりますので、タイミングとして具体的に2月になるのか、1月になるのか、3月になるのか、その部分はまだ最終調整が済んでいないですが、2ヶ月分程度の中で県議会としては県議会だよりのデジタル放送化を、試験をしていこうという方向性で確認が取れております。

(質問) 常任委員会の中で特に政策広報という、要は行政が出している広報物というのは首長の政策なりが一番反映されるツール、メディアであると。その部分というのをデータアルファという方式で引き出すということは、実際には首長の政策広報部分というのをある程度色を付けてしまうんじゃないかと。こういう論理展開で一番ご熱心なのが新政みえの北川さんなんですけど、その辺の部分というのは、会派内ではですね、県議会だよりのことを絡めてですね、何らかのお話というのはされてるんですか。

(副議長) 会派の総会の部分に自分も全て出させていただけではない状況ですので、この前の議論経過も先ほどもお話ししたように出席できてませんので、その経過としては少しご報告をさせていただき情報を知り得ていないという状況でございまして、少し説明させていただき情報がないということでお許しをいただければと思いますが。

(質問) 県議会だよりと県政だよりの違いはあるにしても、北川さんの理論をもってすれば、逆に言ったら県議会だよりもですね、ある意味議会なり議長を頂点とする県議会、県議の考えていうのを政策広報的な意味合いがあると思うんですけど、これが全戸配布ってものを無くした場合に、同じような指摘があり得るんじゃないかと思うんですが、その辺いかがですか。

(副議長) 基本的には広報の在り方として基本的な考え方というのは当然あるかと思いますが。ただ、広聴広報会議の中で議論を深めさせてきていただいた時に、県政だよりが全戸配布を止めていった時に、県議会だよりだけ全戸配布

を続けていくというのは、県民なり市町の方々が理解していただくのは非常に難しいのではないかという議論もありましたので、いろいろと会派の中で県議会だよりだけ全戸配布続けるという過去の議論はありましたが、そういう議論を踏まえた中で今回の結論に至ったという経過でございますので、そういう形で議会としても対応していきたいなと思っておるところであります。

(以 上) 13時29分 終了